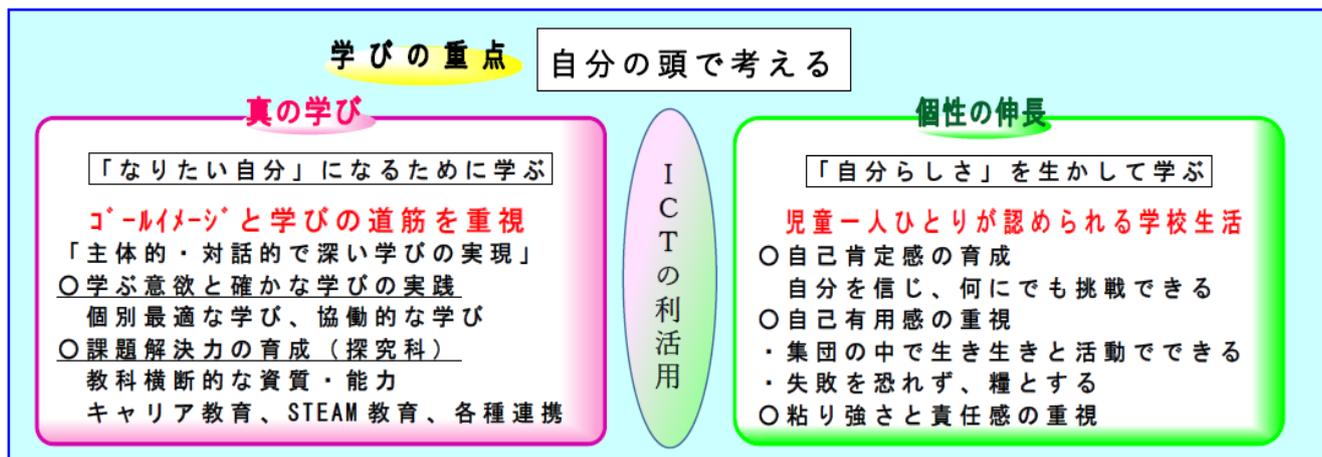




帝京大学小学校だより

2022年度の「自分の頭で考える」

帝京大学小学校 校長 石井 卓之



49名の新1年生を迎え、2022年度が始まります。子どもたち一人ひとりが「なりたい自分」になれる、「自分らしさ」を生かせるようにチーム帝京小で進めてまいります。ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

入学式では、「失敗のすすめ」について話をするつもりです。大学グループの掲げる「自分流」に迫るためには、小学校での「脱平均、キラッと光る一点突破の個性の伸長」が重要となります。では、自分の個性とは何でしょうか？私は好きなこと、得意なことを粘り強く続ける先に見えてくるものと考えています。大人から見ると「ほんの些細でつまらないもの」かも知れません。「何でそんなことに熱中しているの」と思えるものかも知れません。しかし、それが肯定的に他者から認められることで飛躍的に伸びるものだと確信しています。熱中している過程では、頭の中をフル回転させて思考しているはず。好き、得意なことなので、取り組んでいる過程でトラブルが起きたときでも、あきらめずに解決しようとするはず。まずは自力で、そしてあるときは人に聞き、あるときはいろいろな方法で調べて…。そこには、問題解決型の学びの芽がふんだんにあります。今年度の学校の教育活動でも、多様な「自分の頭で考える」を仕組んでいきます。

「ぼんぼこ山」を生きた教材とした生活科、探究等での学びを今年度から5年計画で進めていきます。帝京大学小学校が移設される前、ここは多摩市立の公立学校でした。当時は木の階段が2カ所あり、山の上部にはアスレチックがあったようです。閉校後、山は手入れされることなく樹木が伸び放題となり、人が入れなくなって現在に至っています。今回、多摩市の公立学校の里山づくりにも関わった塚原氏をアドバイザーに迎え、ゴールフリーの問題解決型の学習を進めていきます。教師には子どもの学びにより、授業のゴールを変えていくカリキュラムマネジメントが求められます。子どもたちには学びの過程において、各教科等でこれまでに身に付けた力を総動員するとともに、ICTを最大限に活用して問題解決をしていくことが求められます。各学級や学年で教科を横断しながら取り組む活動も必要となります。取り組み当初は、自分たちの取り組みたいことから始まる活動ですが、やがては相手意識をもち、社会貢献へと進展する活動となるはず。教科横断の取り組みは、活用する力を育成するSTEAM教育となります。また、ものづくりをしてネット販売することで金融教育、キャリア教育ひいてはアントレプレナーシップ教育（起業家教育）へと進んでいきます。さらに、里山を再生することは、学校内においてサステナブル社会を体験する活動にもなり得ます。

保護者の皆様にも参画いただき、一緒に新たな帝京大学小学校の学びを創り出したいと考えています。